

報告者： 武田 直隆（静岡市立高校）

■テーマ：STATS Football Conferenceの報告

■目的：欧州を中心に世界中のリーグ、クラブにサービスを提供しているProzone（現STATSが行っている事例より、選手、指導者、チームとしての情報・データ活用に関しての最新の情報提供と現場レベルでの活用のヒントを探る。

■報告対象者：CSおよび育成年代の指導者

■流れおよび全体像：2名のスピーカーによる講演。通訳を介してパワーポイントや動画を使用していた説明であった為、伝わりにくい部分も多かったが、多くの来場者が参加し、中には語学の堪能な方もおり、サポートされる場面もあった。

※Speakers

- ・Daniel Stenz 1FCケルンにて研修、ドイツサッカー協会、ハンガリー代表にて分析担当
- ・Poul Neilson STATSパフォーマンス・ラボのヘッド UEFA指導者資格所有

■トピックス <データの活用に関して>

①メディカルデータを収集 → 怪我人の管理や要因、復帰プランの作成

↓↓

トレーニングの強度 → どの時期に怪我人が出やすいかなどが客観的なものにできる

トレーニングを撮影 → 選手の姿勢やステップ、フォーム、体重移動等を分析

※怪我の予知ができる

②選手の評価表の作成 → パフォーマンスに関して項目ごと得点とコメントを記載

※選手の状態を説明できるため、パフォーマンスの改善につなげることができる

スタッフ陣のディスカッションの資料になる

③トレーニング記録（練習データ）

1. 分析につながる 2. タレントが分かる 3. 評価にフィードバックできる

4. コンディショニングの把握 → 睡眠、筋肉の疲れ、栄養、尿の状態 の情報より

※練習内容の振り返りや練習の質の確認となる

④Video Library(映像データ)

選手のパフォーマンス改善、次の対戦相手への準備、練習メニューの共有化 エクササイズ  
のガイドラインの提供 等

※選手が自由にアクセスできる環境が必要となる

■ 提言

トップレベルでは、トラッキングシステムによって、何台ものカメラを使い、ボールの動きに加え、各選手の走行距離や加速度、トップスピード、スプリント回数などの詳細なデータが得られる。データを活用し、パフォーマンスの把握・相手チームのスカウティング・チーム分析を行っている。また、詳細な映像やデータを結合し、テクニックや戦略を分析できるソフトウェアもある。我々の現場レベルにおいては、費用的にもスタッフの数からも難しい部分もあるが、上記に上げた3点は可能かと感じた。また、2011年のCS全体会で提供された池谷氏の文字化・言語化・視覚化・データ化の資料、岩手国体レポートと合わせて今後のデータの活用に関して役立てていただければ幸いである。

<添付資料>

- ・カンファレンス資料
- ・文字化・言語化・視覚化・データ化（池谷 孝）
- ・岩手国体レポート（横井 健）

<カンファレンスの様子>

